

喜多方高校 進路だより

(第14号)



2021年2月12日(金)

喜多方高校進路指導部

【1月進研模試の結果を踏まえて】

1～2年生とも、2月20日ごろには「1月進研模試成績表」が配付されます。模試の『振り返り』と『分析』を必ずしましょう！

11月の進研模試以降、2ヶ月に1回のペースで模試を受験しています。今後も、それと同様の頻度で模試が実施されます。授業と予習・復習に追われる日々ではありますが、模試の意義を理解して大いに活用してほしいものです。

<模擬試験受験のポイント>

- ・入試本番をシミュレートする。
- ・普段の学習で気付かない弱点を発見する。
- ・全国の受験者の中での自分の位置がつかむ。
- ・模試受験後の振り返りをする。

【進研模試「デジタルサービス」の利用】

- ①模試受験前に目標校と目標点を登録し、事前に学習戦略を練る。
- ②模試実施直後に自己採点をし、模試の振り返りと復習をする。
- ③個人成績表の配付以前に自身の成績を知る。
- ④模試の解説動画の利用。

※利用の際には、「個人ID」と「パスワード(各自設定)」でベネッセマナビジョンにログインする。

2年生 初のマーク模試実施

～マークシート方式の難しさを知る～

先日、2年生にとっては最初のマークシート方式試験となる「進研早期共通テスト模試」が実施されました。今回の受験に先立って、共通テストのしくみや注意事項についての学習を各ホームルームでも行ったと思います。特に、理科および地歴公民における「第一解答科目」「第二解答科目」については初めて耳にするという人も多かったかもしれません。

また、実際にマーク模試を受けてどうだったでしょう。筆圧の加減やマークミスをしないように気をつけながら、限られた時間内に解答をすることの難しさを体感できたと思います。約1ヶ月後に成績表が配付されます。その時、自己採点の得点と実際の得点との間に差があるということになれば、正しくマークされていなかったり、科目選択マークを間違えたりなどのミスをしたことを意味します。反省事項が見つかるはずですよ。

次回の共通テスト模試は3年生6月です。その模試結果は、現実的なレベルでの志望校選定の資料になり、それに基づいて7月の三者面談も実施されます。今回、マークミスをした生徒は、今回の経験を活かして次回のマーク模試に備えてください。『ミスなくこなす!』これは受験生としての必須事項です。

<大学個別試験について知ろう！>

(1) 国公立大学個別試験(2次試験)

- 国公立大学の個別試験の出願期間は、共通テスト試験後の1月下旬の10日間。共通テストで思うように得点ができなければ、出願先の変更を検討せざるを得ないこともある。
- 万一に備え、第1志望～第3志望ぐらいまで考えておくことが必要である。その際、注意するのは、共通テスト・個別試験で課される教科・科目を揃えること。第1志望大学が課す教科・科目の範囲内で受験できる大学を探すのが鉄則である。
- 前期日程は主に教科・科目の学力試験が課されるが、文系の地方国公立大学では、前期試験から小論文試験という大学もある。よって、小論文が必要な大学を受験する可能性がある場合には、遅くとも3年生夏ごろから計画的に対策を講じるべきである。小論文対策は、共通テスト後の期間では追いつかない。
- 後期日程においては、地方国公立大学を中心として小論文・面接・総合問題などを課す大学も多い。なお、後期日程を実施する国立大学は年々減少している。

(2) 私立大学個別試験(一般入試)

- 私立大学の一般入試は、各大学が自由に入試日程・選抜方法を設定している。よって、試験日が重ならなければ何校でも受験できる。また、一般入試は、各大学が個別に試験を実施する。「一般方式」と共通テストの成績を利用する「共通テスト利用方式」に分かれる。共通テスト利用方式の場合は、直接大学に出向かなくてもよいので、時間と経費を節約できるが、同一大学の学部・学科であったとしても、難易レベルが一般方式に比べ高く合格しにくい。
- 首都圏の大学については、キャンパス所在地域以外で受験できる「地方受験」や試験日を複数日から選択できる「試験日自由選択制」などを設定する大学が増え、試験日や試験地についても自由度が高くなっている。
- 私立大学は数が多いだけでなく、一般入試の種類も実に多様である。入試科目だけでなく、試験日や試験会場を確認したうえで、余裕をもって専願・併願校を絞り込んでいく必要がある。

<2月の進路行事>

2月2日(火)、3日(水)、5日(金)	全統模試(1年希望者)	<終了>
2月5日(金)～6日(土)	進研早期共通テスト模試(2年)	<終了>
2月13日(土)	考查前学習会	
2月19日(金)	卒業生による講演会(1年)	

会津の冬はやはり厳しい!

この冬はいつになく寒く、日本海側を中心に大雪に見舞われ、雪もなかなか融けません。気象情報によると、偏西風が南に蛇行しているために寒気団が南下しやすく、日本付近が寒くなっていると伝えられています。特に、1月中は、降雪によって列車が遅延・運休したりする日が続き、遠距離通学の人には本当に困難だったと思います。氷点下の気温の中、雪道を歩き、駅へ向かい列車を待つという日々ではありますが、そういった状態を嘆くより、厳しい条件の中、天候や時刻表に支配される時間を自律的に使いこなす方法を学んでいるのだと、前向きに考えてみてください。遠距離通学で培う力の大きさを、いつかきっと感じる時がやってくると思います。